

「学校・家庭・地域を結ぶボランティアネットワーク」

—ひろがりはじめた学校支援地域本部事業—

清須市学校・家庭・地域連携推進協議会

1 はじめに

本市では平成20年度より西枇杷島中学校区において、本事業の取り組みを開始し、平成21年度からは、2人の地域コーディネーターが、中心となって普及啓発及び活動促進を行っている。平成22年度からは、読み聞かせボランティア養成講座を定期的開催するなど、ボランティアの育成に取り組み、平成23年度は、清洲東小学校、春日小学校にも事業を広げた。今年度は、さらに、清洲中学校、星の宮小学校でも事業を開始し、地域コーディネーターも、バランスを考慮し中学校区で1人ずつ、全4人を配置した。各学校の特色と要望を把握し、ニーズにあった人材情報を収集することにより、地域ボランティアのネットワークづくりを進めている。

2 事業の概況

(1) 清須市学校・家庭・地域連携推進協議会開催

6月26日 第1回 平成23年度の事業報告、平成24年度の会長、副会長の選出、事業の説明、平成24年度の事業計画

1月18日 第2回 活動報告と来年度の計画について

(2) 学校支援ボランティアの募集

新たに取り組みをする2つの学校では、保護者に向けてボランティア募集チラシを配布し、学校支援地域本部事業についての周知を行った。また地域コーディネーターが、長年地域で活動している各種団体の理解を得て、連携の礎を築くことで、今年度は、ボランティアの登録人数が増加した。

(3) コーディネーターの活動

今年度は、中学校区単位で4人のコーディネーターを配置した。平成21年度より活動しているコーディネーターがリーダーとなり、新規3人のコーディネーターとコミュニケーションをとり、それぞれの学校の状況に応じて打ち合わせをしながら、進めていった。また、コーディネーターが直接、地域の各団体との交流を深めることに努め、地域住民とのボランティアネットワークを充実させることができた。

(4) ボランティア養成講座の開催

学校図書室において、本の補修や読み聞かせをするボランティア講座を、新川地区において開催した。基本的な知識・技術等を3日間の日程で学び、講座終了後には、星の宮小学校で読み聞かせの実践をし、清洲東小学校で、図書修繕を行った。今年で3年目となる養成講座だが、修了者は、自



【保育園で実演する子ども達】

主グループをつくり、継続した活動を行っており各学校の図書修繕に積極的に参加したり、各小学校や放課後子ども教室、児童館、市立図書館での読み聞かせを行ったりして技術力の向上を図っている。また、夏休みには、中学生を対象にした読み聞かせ講座を2日間の日程で開催し、保育園や図書館において読み聞かせを実践した。

3 学校支援ボランティア活動の実際

(1) 西枇杷島中学校での取り組み

下小田井防犯協会との連携も今年で3年目となるが、今年度は、さらに西枇杷島地区寿会連合会にも加わっていただき、学校支援の輪が着実に広がり、感謝の和となってきた。

◆環境整備支援と学校行事支援

昨年度から引き続き、環境整備の難しい「アジサイ園」の整備を6月から11月にかけて、13回のべ122名の方々に継続して行っていただくことができた。また、夏休みの「夏休み親子ふれあい除草」としてPTAと連携した除草には、保護者66名と寿会20名の協力を得て、生徒とともに活動を行った。

「ふれあい体育大会」と「ふれあい文化祭」では、校門・校内巡回パトロールをお願いした。両行事を円滑に実施することができた。揃いのジャケットを身に着け、校内でも一目でその活躍ぶりがわかり、学校・来校者の双方が安心して楽しむことができた。

(2) 西枇杷島小学校での取り組み

◆環境整備支援

昨年度から引き続き、寿会を中心とした地域のボランティアの方々に「畑の土づくり作業」をお願いした。子ども達と一緒に草を抜き、耕運機で土を掘り起こしてくださり、2年生が生活科でさつまいもの苗を植えることができた。秋には、収穫したさつまいもでもおいもケーキを作り、お世話になったボランティアの方々を招いて、感謝の会を催した。子ども達との交流を通じ、学校と地域ボランティアとの親近感と信頼感がより一層深まった。



【さつまいも畑の土づくり】

(3) 古城小学校での取り組み

◆見守り支援と学習支援

児童が、毎日安心して登下校できるのは、「みまもり隊」のおかげである。毎日、交差点、横断歩道、踏切など、危険箇所立って、児童を交通事故や不審者から守っていただいている。登下校の見守りだけでなく、子ども達との交流活動も盛んに行われており、夏休みのPTA主催で行われている「親子除草」、2月に行われる学校行事「マラソン大会」の走路警備などにボランティアとして参加するだけでなく、小学校3年生の社会科では、「昔の話を聞く会」に祖父母として、お話していただき、一緒に給食を食べたり、遊んだりして児童と交流を深めている。



【三世代交流での様子】

また、今年度から、清須市教育委員会を通して、年間20回、大学生のボランティアに活動してもらっている。内容は、主に授業の補助と修繕、清掃の手伝いである。子どもの安全面、環境整備の面として、とても助かる存在である。

(4) 清洲東小学校での取り組み

◆読書活動推進の支援

今年度、清洲地区において、地域コーディネーターが配置され、図書室の本の修繕活動に取り組むことができた。保護者を中心にボランティアを募ったところ、28名の参加が得られ、250冊の修繕を行った。

学校支援地域本部事業の広がりの中で、学校間交流も盛んになり、清洲東小学校・西枇杷島小学校・古城小学校の読み聞かせグループ・PTAボランティアによる朗読劇『おまえ うまそうだな』を体育館で上演した。ピアノ・バイオリンの生演奏と、先生方のサプライズ出演もあり、会場は大いに盛り上がった。



【図書修繕の様子】

(5) 春日小学校での取り組み

◆宮重大根の栽培支援

毎年、3年生は、本校の東側にある花壇120㎡を利用して、市の春日地区の伝統野菜である宮重大根を栽培している。子ども達は、宮重大根純種子保存会（20名）の方から、宮重大根の歴史や特徴および栽培手順とその方法についての説明を受けた後、9月上旬の種まき、9月下旬と10月中旬の2回の間引きを行い、12月中旬に太くて重い大根を収穫した。一人一人は、引き抜いた瞬間に大喜びし、笑顔で持ち帰ることができた。今後は、1月中旬に保存会の方をお招きし、お礼の会を催した。子ども達は、農作業を通して、野菜に親しみ、地域の伝統を学習し、食を通して感謝の気持ちをもつと同時に、地域の方にとっては、次代を担う子ども達との交流を深める場となっている。

(6) 星の宮小学校での取り組み

◆教育相談週間における読み聞かせ活動の支援と子育て講座支援

教育相談週間の長い放課を利用して、相談を受けていない子に対し「ほしの広場」を利用してボランティアによる読み聞かせを行った。地域コーディネーターを中心に、ボランティアを募集し、他の学校のボランティアグループの協力も得て活動した。毎回3話ずつ、大型絵本・紙芝居等いろいろな方法を使っての読み聞かせに、低学年児童を中心に毎回50名程度の子ども達はとても喜んで参加していた。今後も、継続して行っていく予定である。



【読み聞かせの様子】

また、来年度新1年生の保護者約50名を対象に、家庭教育推進グループ「チームMOMO」による子育てに関する講演を10分程度ではあるが行ってもらった。初めて子どもを小学校に入れる保護者にとっては大変参考になった。

(7) 清洲中学校での取り組み

◆家庭科保育実習への支援

1年生は1学期に家庭科の授業で保育園実習を行う。その引率を家庭科担当の教諭が一人で行っていたが、生徒数の増加に伴い、生徒の引率や保育園での指導の負

担が大きくなっていた。今年度は、学校支援地域本部事業として、保育園実習時における引率と園児を楽しませる技術の指導（折紙・絵本の読み聞かせ）、実習時における生徒への支援活動を行うこととなった。地域コーディネーターを通して、引率・折紙指導・実習時の支援は家庭教育推進グループ「チームMOMO」、絵本の読み聞かせの技術指導はJ P I C 読書アドバイザーに依頼した。幼児の好きな絵本の選び方を学び、グループに分かれて読み聞かせの練習、紙芝居の練習を行った。これにより、保育園側から、生徒の活動に無駄が無く、しかも園児を楽しませてくれたことに感謝と称賛をいただいた。また、家庭科担当者の負担も軽減された。



【保育園での実習支援】

4 成果と今後の課題

この事業も5年目を迎え、当初から実施している西枇杷島中学校区の3校（西枇杷島中学校・西枇杷島小学校・古城小学校）では、充実した取り組みが継続しているが、さらに今年度は、第一幼稚園との連携も積極的に進めた。読み聞かせ活動やみまもり活動など様々な交流を通して、幼い頃から、子ども達の健やかな成長を願う地域ボランティアの、子どもを中心にしたネットワークができつつある。温かいまなざしを注ぎこまれて成長した子ども達の中には、自主的にボランティアに参加する子ども達も増えてきており、今後の活動が楽しみである。

2年目となった清洲東小学校・春日小学校においては、地域コーディネーターが配置されたことにより、前年度の事業を継続しつつ、学校のニーズにあったボランティア活動ができた。清洲東小学校については、以前から活発だった読み聞かせグループが、ボランティア養成講座にも積極的に参加し、ボランティアとしての技術を向上させ、新設された本市図書館へも活動の場を広げている。

今年度から取り組んだ星の宮小学校では、PTAと保護者と地域ボランティアとの交流もでき、子ども達にとっても、有意義な時間となった。今後更なる発展のための基盤は整った。清洲中学校においても、地域コーディネーターが、ボランティアの特技や地域で活動するボランティアグループの特性を理解し、学校のニーズに適した連携を提案することができた。

今年度の取り組みを踏まえ、今後の課題となるのは、地域コーディネーターの育成である。今年度1人減少となった西枇杷島中学校区に置いては、3校を1人のコーディネーターに任せるのは、時間的にも内容的にもかなり厳しいものがあつた。学校毎に、地域コーディネーターを配置し、地域コーディネーターの活動拠点をおくことにより、各地域ボランティアからの信頼も得られ、各学校の特色ある活動をさらにきめ細かく支援できる体制づくりが可能となる。

市内全学校での取り組みを目指しつつ、学校と地域とがさらに連携を深め、様々な団体をまきこみ、学校と地域を結ぶネットワークをつくっていくことで、学校の教育活動の充実やさらには地域コミュニティの安心や活性化につなげていきたい。